



パスファインダー Pathfinder ～あるテーマについて調べる際に、役立つ資料や調べ方を紹介します～

甲州道中は、江戸時代の五街道の一つで、当初は「甲州海道」「甲府海道」などと言いましたが、1716(享保元)年に幕府により「甲州道中」と改称され、民間では「甲州街道」という名称も慣用されました。江戸日本橋から中山道下諏訪宿までを結ぶ45か所の宿のうち、甲斐国内には25宿がありました。このパスファインダーでは、甲州道中(主に山梨県内)について調べるときに役立つ資料を紹介します。

## 1. 甲州道中の概要を調べる

まず、甲州道中の概要について知りたいときには、日本史事典や地名辞典などの事典類を利用しましょう。

### ■『国史大辞典 第5巻』(国史大辞典編集委員会／編 吉川弘文館 1985年)【210.03/コウ/5】

日本歴史の全領域をおさめた日本歴史大百科辞典です。p.378に「甲州街道」の項目があり、概要や歴史、参考文献の記載があります。

### ■『日本歴史地名大系 第19巻 山梨県の地名』(平凡社 1995年)【K29/ニホ/19】

全国の歴史研究者の協力を得て編纂され、地名研究、地域史研究の全成果を結集した地名辞典です。pp.40-41に「甲州道中」の項目があり概要や歴史、文化、史料の紹介などの記載があります。

## 2. 調査報告書で調べる

現地調査の報告書では、街道沿いのそれぞれの歴史的遺構や周辺の文化財等について、より詳細に知ることができます。

### ■『山梨県歴史の道調査報告書 第4集 甲州街道』(山梨県教育委員会／編・発行 1985年)【K29/ヤマ/4】

1983(昭和58)年度から山梨県教育委員会が行った「山梨の歴史と文化の道」調査事業の報告書です。第4集では、甲州道中の概要のほか、現地調査による道筋の推定や、街道沿いにある宿場、一里塚、道標、石畳、口留番所などの諸施設の遺構や、周辺の社寺、文化財などについて、その歴史や現在の状況を明らかにしています。

### ■『甲州夏草道中記 上巻』(山梨日日新聞社／編・発行 1970年)【K29/ヤマ/1】

1936(昭和11)年から1967年(昭和42)年まで山梨日日新聞社の主催で行われた、山梨県内の古道を実際に歩いて、名所旧跡や地域の伝承等を訪ねた「夏草道中」の道中記です。第1回「明治天皇巡幸路を行く」、第10回「甲州街道を終点まで究む」で、甲州道中を踏査しています。

## 3. 江戸時代の資料で調べる

江戸幕府によって作られた絵図や、江戸幕府による街道の調査、江戸庶民が甲州道中を旅する際に使用した、旅籠屋などが紹介されているガイドブックなど、当時の資料も見てみましょう。

### ■『甲州道中分間延絵図』全9巻(東京美術 1978～1987年)【K29/コウ/1～9】

1800(寛政12)年から7年間をかけて江戸幕府の道中奉行所が作成した測量絵巻「五街道分間延絵図」のうちの甲州道中の部分です。街道筋の本陣、脇本陣、問屋や、家並み、一里塚、橋梁、寺社などが、実測の1/1800の縮尺で詳細に描き表されています。解説編には、簡略化した絵図に絵図上の文字の翻刻が記され、現況写真と絵図面にある宿村や社寺などの解説があるので、絵図編と対照しながら使えます。原本の「五街道其外分間延絵図並見取絵図」(重要文化財)は、東京国立博物館に所蔵されています。

### ■「甲州道中宿村大概帳」

江戸時代に、道中奉行所が幕府の直轄する五街道の宿と沿道を調査した「宿村大概帳」のうちの甲州道中の部分です。宿高、戸口、本陣の規模、旅籠数、人馬賃銭、宿駅人の数などと、次宿までの間の往復掃除町場の負担村名、並木、一里塚、立場、橋梁などを詳しく記述。活字版(翻刻)が『近世交通史料集 6巻 日光・奥州・甲州・道中宿村大概帳』(児玉幸多／校訂 吉川弘文館 1972年)【682.1/キョ/6】に記載されています。

#### ■『新修五街道細見』（岸井良衛／著 青蛙房 2004年）【682.1/キ】

五街道とその支線の道中を、江戸時代の道中記や図絵等を参考にして編集した「道中細見」です。「甲州街道(甲府、身延道。金沢、伊那部道)」(pp.201-216)の部分は、「五海道中細見独案内」を基に、「東講定宿帳」(安政6年)、「木曾路名所図会」(文化2年)による補足を加えて編集されています。

#### ■「甲州道中細見記」〈甲州文庫〉マイクロフィルム)

江戸時代のポケット版旅行用ガイドブック「五海道中細見記」(1858(安政5年)のうちの甲州道中の部分です。街道筋の略図に、旅籠屋と休み茶屋、宿駅、国・郡境、一里塚、本陣、問屋、高札等のほか、宿場間の距離や近隣の名所、名物などが記されています。また、活字版(翻刻)が『日本街道総覧』(宇野脩平／編集 新人物往来社 1976年)【682.1/ニホ】に収載されています。

#### ■「諸国道中商人鑑」〈山梨デジタルアーカイブ〉

1827(文政10)年に刊行された甲州道中と身延道の宿の買い物用ガイドブック。甲州道中を東から西へ、宿駅ごとに旅籠屋はじめ代表的な商家を紹介しています。『甲州文庫史料 第2巻 甲府町方編』(山梨県立図書館／編・発行 1973年)【K25/ヤマ/2】に、甲府の部分(10丁、35軒)のみ影印(白黒写真)が掲載されています。

## 4. 日記、紀行文などで調べる

江戸時代に書かれた甲州道中の日記、紀行文などの記述に、貴重な情報が見つかることがあります。江戸から明治時代の、甲州道中の各所について記述のある日記、紀行文・紀行文学などから主なものを紹介します。

#### ■『甲斐志料集成 第3巻 日記紀行篇』(甲斐志料集成刊行会／編 歴史図書社 1981年)【K08/カ/3】

郷土史家の萩原頼平が、甲斐国に関する各種資料を集大成・刊行したものです。第3巻には日記・紀行文が収められ、「並山日記」(1850(嘉永3)年、黒川春村／著)、「広重甲州道中記(「甲府日記」卯月)」(1841(天保12)年、安藤広重／著)、「峡中紀行」「風流使者記」(1706(宝永3)年、荻生徂徠／著)、「津久井日記」(1838(天保9)年、寛雲老人／著)などを収載しています。

#### ■『甲斐叢書 第1巻～第3巻』(甲斐叢書刊行会／編 第一書房 1974年)【K08/カ/1～3】

甲斐叢書刊行会から1934(昭和9)～1937(昭和12)年にかけて刊行された甲斐国に関する各種資料集です。第1巻には、「富士日記」(1790(寛政2)年、賀茂季鷹／著)、第2巻には「松亭身延紀行」(1860(万延元年)、瓜生金鷲／ほか著)、第3巻には「甲州道中記」(1866(慶応2)年、霞江庵翠風／著)、「甲駿道中之記」(1830(文政13)年、吉田兼信／著)、「峡中紀游草」(1857(安政4)年、川本衡山／著)などを収載しています。

#### ■「金草鞋 十二編身延道中之記」(1818(文政元)年、十返舎一九／作 歌川豊国／画)

奥州の僧侶・千久良坊と狂歌師の鼻毛延高が、身延参詣に行こうと江戸を出て甲州道中を通り、甲府から身延山に至る道中の各所で起こる出来事を描いた滑稽本です。活字版(翻刻)が『十返舎一九全集 第2巻』(日本図書センター 1979年)【913.55/ジツ/2】、『十返舎一九の甲州道中記』(鶴岡節雄／校注 千秋社 1981年)【K953/ジツ】に収載されています。原本のデジタル画像が「山梨デジタルアーカイブ」で閲覧できます。

#### ■「身延参詣 甲州道中膝栗毛」(1857(安政4)年、仮名垣魯文／作 歌川芳盛／画)

弥次郎兵衛と喜多八が甲州道中を通り甲府へ行き身延参詣を行う様子を描いた滑稽本です。活字版(翻刻)はなく、「山梨デジタルアーカイブ」でデジタル画像が閲覧でき、影印(白黒写真)が『膝栗毛文芸集成 第34巻 東海道中栗毛弥次馬』(中村正明／編集・解題 ゆまに書房 2016年)【918/ヒザ/34】に収載されています。

#### ■「身延道中滑稽華の鹿毛(身延道中膝栗毛)」(1809(文化6)年、河間亭水盛／作 永曲、歌川国丸／画)

十返舎一九の「東海道中膝栗毛」を真似して作られた滑稽本です。神田八丁堀の裏長屋に住む左次兵衛と福七が、甲州道中を通り、身延参詣を行う様子を描いています。活字版(翻刻)はなく、「甲州文庫」マイクロフィルムで閲覧できます。また影印が『膝栗毛文芸集成 第15巻 身延道中滑稽華の鹿毛』(中村正明／編集・解題 ゆまに書房 2013年)【918/ヒザ/15】に収載されています。

#### ■『明治天皇御巡幸記』(山梨県／編・発行 1940年)【K288/ヤマ】

明治13年6月に行われた明治天皇東山道巡幸は、東京を出発して甲州街道を西に向かい、甲府に3日間滞在し台ヶ原から長野県に向かいました。その記録を、県庁所蔵の御巡幸記録や公文書、新聞記事等によりまとめたものです。行路の地図には『山梨県御巡幸沿道略図』(大和屋書店 1934年)【Z03/274】があります。